

自記圧力計とマンメーターとの比較検査表

6ヶ月(デジタル式は1年)に1回以上実施

検査年月日 平成 年 月 日

メーカー

形式

製造番号

検査員印

測定点 目安	* マンメーター読み (A)	自記圧力計		補正值 (A)-(C)	調査・修理 記録
	kPa(mmH ₂ O)	指示値(B)	記録値(C)	kPa	
		kPa(mmH ₂ O)	kPa		
9.0kPa (918mmH ₂ O) セーバープロは 9.6~10.0kPa					
6.0kPa (612mmH ₂ O)					
2.5kPa (255mmH ₂ O)					

* 換算値: 1mmH₂O → 0.0098kPa

チャート・記録紙貼付欄

補正記録手順(機械式自記圧力計・・・矢崎、理研、愛知など)

- ① 自記圧力計を室温に充分なじませる
- ② マンメーターを垂直に立てて固定する
- ③ マンメーターの水位ゼロを正しく合わせる
- ④ マンメーターと自記圧力計を接続する
- ⑤ 加圧し、マンメーターを9.0kPa(918mmH₂O)に合わせて、マンメーターと自記圧力計の表示値を読み取り、「マンメーター読み(A)」と「指示値(B)」の欄に記入する
「マンメーター読み」の単位がmmH₂Oの場合、換算値を用いてkPaに換算する
- ⑥ 順次 6.0kPa(612mmH₂O)、2.5kPa(255mmH₂O)程度に圧力を下げ、⑤と同様に読み取った数値を(A)と(B)欄に記入する
- ⑦ 記録用紙(チャート紙)を取り出し、記録された数値を正しく読み取り「記録値(C)」欄に記入する
- ⑧ ⑤~⑦の測定において、圧力誤差が±0.2kPaを超えるものは不合格とし、±0.2kPa以下の誤差のあるものはその「補正值」を用いることによって使用できる
不合格の場合は、調整を行ない再度測定するが、調整不可能な場合はメーカーに修理依頼する

補正記録手順(デジタル式自記圧力計・・・ポケマン、デジマン、セーバープロ など)

- ①②③④⑤⑥は同じ手順で行なう
※ただし、セーバープロは⑤の圧力を9.6~10.0kPaで測定する
- ⑦ 記録値をプリントアウトし、各値を「記録値」欄に記入する ※セーバープロは表示部の写真を撮る
- ⑧ ⑤~⑦の測定において、0.03kPaを超える場合は不合格とし、メーカーに修理依頼するか、説明書に従って校正作業を行なう

- ※ 各測定値では3~5分間圧力を保持させ、機器自身の漏えいを確認する
- ※ 調整しても誤差が大きい場合はメーカーに修理依頼する
- ※ 表示板がない機種は「記録値」と「補正值」のみ書き込む
- ※ 機械式自記圧力計で「補正值」が0.2kPaを超える場合は使用禁止(例示基準29節)
- ※ デジタル式自記圧力計で「補正值」が0.03kPaを超える場合は使用禁止(")
- ※ 検査結果はチャート紙とともに2年間以上保存すること